44 クローン病の^{111}In-DTPA-IgGシンチグラフィ

丸岡 伸、山崎哲郎（東北大放）

治験第３相として^{111}In-DTPA-IgGを使用する機会を得たので、クローン病に対して^{111}In-DTPA-IgGシンチグラフィを行い、活動性の炎症巣の評価を試みた。対象はクローン病５例で男性４例、女性１例、年齢は20－36歳、平均27,8歳であった。同一症例で２回の検査を行った症例が１例あり検査件数としては６件である。

シンチグラムの方法は^{111}In-DTPA-IgGを80MBq静注後、１日２日３日後にSiemens社製 MULTISPECTを用い、前後面の全身像および腹部のplanar像とSPECT像を撮像した。

陽性画像の得られたのは６件中４件であった。腸透視の所見との不一致例も認められたが、腹部のbackgroundが低く腹部の活動性炎症巣の評価には有用であると思われた。

45 透析アミロイドーシスにおけるTc-99m(V) DMSAシンチグラフィーの有用性について

鈴木健之、大日方研、宮前達也（埼玉医大放射線科）
菅原壮一、鈴木洋通（埼玉医大腎臓病センター）

関節痛を有する長期透析患者４症例にTc-99m(V)DMSAシンチグラフィーを施行し、四肢関節の他、肩甲骨内側、座骨周囲、大腿骨大転子周囲に異常集積を認めたことを、前回の本学会で報告した。股関節においては、異常集積部位と一致してＭＲＩ像にて異常信号領域を認めた。また手関節の生検施行例ではアミロイドが証明されている。今回は症例数を８症例とし、異常集積の頻度を検討した。全症例で四肢関節のいずれかに異常集積を認めた。また肩甲骨内側、座骨周囲、大腿骨大転子周囲の集積は、共に５症例（６２．５％）に認めた。これらの異常集積は、本検査に特異的と思われた。Tc-99m(V)DMSAは、長期透析患者におけるアミロイドーシスの診断に有用と思われた。

46 昇圧操作によるIn-111標識抗体体内分布の改善：昇圧時間の影響

絹谷清剛、横山邦彦、小西章太、宮内勉、道岸隆敏、利波紀久（金大核）、山本和香子（旭川医大放）、久田欣一（北陸中央病院）

Angiotensin-II(AT-II)による昇圧効果を利用し抗体の腫瘍集積性を改善可能であることを以前報告した。今回は至適昇圧時間を検討した。大腸癌移植マウスにAT-II(1ug/kg/min)含有ポンプを移植し、In-111-DTPA-A7投与48時間後の体内分布を観察した。昇圧を抗体投与後10分、30分、3時間、24時間、48時間持続した各群の抗体分布を比較した。48時間群では腫瘍放射能は非昇圧群に比べ約2倍増加したが、正常臓器放射能も増加した。10分－24時間の群では腫瘍放射能は約1.5倍増加し、かつ正常臓器放射能に大きな変化はなかった。臨床上可能な短時間の昇圧操作でも、抗体体内分布を改善可能であることが示唆された。

Presented by Medical*Online